

第二回スサノオ伝説・斐伊川流域を巡るバスツアー

酒井 董美



須我神社現地講座の会場・室内で椅子に座り勝部和承宮司の講演を聴く

六月二十六日（土）にあった標記の催しに参加した。主催は島根半島四十二浦巡り再発見研究会。二十七名乗りのバスもコロナの関係で募集を会員に絞ったため、参加者は松江市、出雲市、米子市から集まった十五名であった。

心配された天候もまずまずだった。バスの出発はJR松江駅七時であるが、これは役員乗車時間のことで、参加者の最初は七時三十分雲州平田駅前からの乗車で、途中、松江しんじ湖温泉駅前八時十分、JR松江駅前八時三十分とあり、帰りは逆回りであった。筆者の場合八時三十分松江駅前乗車でよかったので、いたって楽だったが、役員の皆さんは早朝から大変だっただろうと、他人事ながら感謝しつつ思ったことであつた。ちなみに当日の役員は、木幡育夫事務局長以下、貴谷麻以、立石保男、遠藤律子のみなさんだった。

九時から須我神社「神楽の宿」で勝部和承宮司の講演「御祭神スサノオの大神」を一時間受講したのを皮切りに、神社めぐりは始まったが、講演で特に印象深かったのはスサノオが大蛇を退治した剣のレプリカなる荒川亀斎制作の木製品を見せられたことだった。

その後、雲南市の主として木次町内にある以下の関連神社を巡った。布須神社（寺領）、大森神社（東日登）、河邊神社（上熊谷）、八口神社（加茂町神原）、斐伊神社（木次町里方）、八本杉（同上）、並九神社（下熊谷）。

ガイドは雲南市観光ガイド、上代昇氏だったが、内容も豊富で知見に富んでおり、なかなか聞き応えがあつた。氏は都合でバスの中ではなく、現地で説明される形を取った関係で自家用車で走られたが、筆者の高齢を配慮されたのか、途中で役員からガイドである上代氏の車に便乗するよう進められ、氏も話し相手があつて良からうとも思い、その勧めに従って同乗したが、自家用車なのでバスより早く次の現地に行くこともあり、別なコースで予定地以外の関連地を見せてもらった幸運にも恵まれた。その上代氏は年齢を聞いて八十歳と話されたのには驚かされた。実に若々しいのである。人は見た目では分からないものである。

帰宅は午後五時を回っていたが、実に充実した一日だった。改めて役員のみなさんに感謝したい思いでいっぱいである。（元島根大学法文学部教授）